

宗務所婦人会報

第26号



曹洞宗宮城県宗務所婦人会



美しい心の
ふれあい

ひろげよう
信じよう

平成と共に歩んだ宗務所婦人会

曹洞宗宮城県宗務所婦人会 会長 高橋 たつ子



未曾有の大震災から二年半が経ちました。復興二年目になります。なかなか見えて来ないのが仮設にお住まいの方達の落ち着かれる場所ではないでしょうか。一日も早い復旧、復興を願うのみです。

その中で、今年最初の取り組みは、三回忌法要に向けて、ささやかでも何か心のこもったものを作って差し上げたいということになりました。新年研修会は「刺し子」のご指導を受けながら実習にいたし

ました。おぼえた「刺し子」

を自分の婦人会でお広めいただき、当初の目標数を達成させることができました。一針一針に心を込めた「刺し子のコースター」にメッセージカードとメモ帳を添えた包みは素敵に輝いてみました。

おかげ様で、多くの皆様を心で痛めております「大川小学校児童教職員合同慰霊祭」に当婦人会の代表が出席参加の上、お手渡しすることができました。あとの分は十二教区の教区長様をお願いして雄勝町の三回忌法要にお届けしていただきました。

一昨年、サンプラザホールでの三県合同の一周忌法要が

ありました。その際、北海道中央寺の婦人会様が、支援のお気持ち「千羽鶴」のつもりで会員さん方が一針つつ作り上げた「刺し子の花ふきん」を一、〇〇〇枚持参の上、入口で皆さまにお声を掛けながら手渡しておられたお姿がとても印象に残っております。

正に四摂法の実践であり、私達のお手本でもあると思っております。

平成と共に歩んでまいりました曹洞宗宮城県宗務所婦人会は設立二十五周年目を迎えました。四月の総会は久しぶりに宿泊を伴う会にして記念式典とか記念品は省いて、皆様の心に残るお話を聴く会にしたいということ、只今「時の人」でいらっしゃる復元船サン・ファン・パウティスタ号のある石巻ミュージアム館の館長の濱田直嗣先生に記念講演をお願いいたしました

た。先人の偉業に改めて心がうたれる貴重なお話をいただき、視野を広げて日常生活やこれからの支援活動に生かしてまいりたいと思います。

支援活動につきましては、曹洞宗青年会の進めておられる「傾聴行茶」活動に協力の機会を与えていただきましたので、お声をかけていただければ一緒にと思っております。

これからも宗務所の所長さま始め皆さま、教化センターの統監さま始め皆さま方のご指導とご協力をいただきながら会活動をやって参りたいと思いますのでよろしくお願ひ申し上げます。 合掌



挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長 三宅 良憲



世の中は恰もアベノミクスにより景気が上向き、オリンピックの誘致も決定し、東北は楽天の優勝セールに沸き、「あまちゃん」ブームや「八重の桜」ブームにいい事づくめで、このまま復興に拍車がかかるかと思った矢先、産業通産省官僚や復興庁職員のブログやツイッターによって水を注された感がある。さらに生活は決して向上するどころか消費税率アップ導入によって苦しさを増していくさえ考えられる。

特にお役人と被災地では物事を感じ方に温度差がある。そこには東北切り捨てとも思える差別発言や意識が見える。実に暗澹たる思いがする。特に被災地を支援してきた婦人会の皆さんからすれば、その活動自体が否定され無意味なものだと規定されたことになる。実に失礼な話である。人の上に立つ者のエリート意識が見え隠れし、エリート官僚のエゴや奢りが感じられるのは決して私だけではあるまい。官僚の、事実を客観的に十分把握していない他人ごとの捉え方が馬脚を現したと言っている。こうした意識はどこから来るのだろうか。それは、誤っ

た西洋文明によって培われた近代科学の持つ合理主義や客観主義によるものだと考えられる。合理主義は、非雇用労働者を生みニートを作り出している。果てはリストラ（再編成・首切り）となって表れる。客観主義は、数字による成果や効果のみを問題にする風潮に繋がっている。

そもそも科学は、人間と自然との関わり方のことである。西洋の場合は、「対自然」すなわち、自然と対決して人間が住みやすいように変えていくという関わり合いである。それに対して日本の場合には、「没自然」つまり、自然と共に生き自然と調和する関わり合いである。結果として日本人の自然観は、主知的・主観的に事実を受け止める生き方となる。自然にも人にもやさしい生き方である。その中から、思いやりの考え方が生ま

れ感じ方に幅ができる。「支え合う」という意識である。なぜ西洋の科学が日本を蹂躪するようになったかと言えば、西洋の科学には自らのものを至上のものとする西洋人特有のプライドが底に張り付いている。それが事実認識の中にも表れる。つまり、合理的客観的事実の上に立つという傲慢さになる。この中から原子力発電の安全神話が生まれ、自然の驚異の前に神話が崩れ「妄想」であることを露呈する。本来、日本人は「和泥合水」のような仏の慈悲と自然から学ぶ謙虚さを持っている。それを忘れてはなるまい。今後、も佛教婦人会は、被災地支援の「利他行」を通して人間的な成長を目指して戴きたい。高級官僚の持つ傲慢さや無神経さは、差別意識の助長させるこそすれ人を成長させることではない。

亡き人は今

曹洞宗東北管区教化センター統監 高橋 哲秋



お葬式と墓地

インターネットなどに「僧侶派遣。戒名料含め〇〇円」などが多く掲載されていますが、葬儀は済ませたけれど納骨する墓所がないなどの問題が出て来ています。納骨を終えてこそ、葬儀一切の終了と云えます。

私たち曹洞宗のお葬式は、受戒の儀式と告別式の二部構成になっています。

受戒は、お釈迦様の弟子になる儀式です。亡き人は生前も菩提寺の檀信徒でしたが、お葬式に際して正式に仏教徒としての「戒め」を授かり、み仏の弟子としての名前（戒名）を頂戴します。

お釈迦様から伝えられてきた

「戒め」をご住職から授かったのですから、直接的にはご住職の弟子となります。師匠であるご住職は弟子となった亡き人に対しての責任を持ちます。その責任の一つに埋葬場所の提供です。

公営墓地など以外は、授戒したご住職のお寺が菩提寺となります。

告別式は誰のため？

最近、家族葬とか密葬・直葬なども増えているといえます。一般葬者を拒むお葬式です。

亡き人と少しでも縁があった方にしてみれば、お焼香をしてお別れをしたいのが人情です。そのために告別式が営まれます。

告別式は遺族や近親者の為の場ではなく、地域の人や多生の縁のあった方々がお焼香する場です。一人の死は、家族や身内だけのものではありません。お焼香を拒むことは、縁を絶ちきることにつながります。

お葬式は共助

ご家族やご身内の方々は、亡き人との別れを静かに送りたいと云う気持ちも大切にしたいものです。

しかし最近では、世の中が忙しくなってしまうからなのかもしれないが、お通夜や火葬場でも一般焼香が行われています。そのため、本来の告別式に参列者がほとんどいない事もあります。

告別式以外の火葬や通夜などの儀式は、近親者が最後の別れを惜しむ場であり、部外者が軽々しく訪問すべきではありません。一般葬者のためには告別式がきちんと設けられています。

告別式には、香典を包んで縁のあった人や地域の方がほとんど参列しました。香典は葬儀を通しての共助でもありました。

悲しみから感謝へ

因みに映画「送り人」によって「納棺師」がクローズアップされるようになりました。死に化粧や納棺に対して遺族よりも真摯に勤める姿に感動を覚えた方もいると

存じます。しかし、納棺や死に化粧は本来、身内の方が行うことであり、他人に任せることではありません。

葬儀社に全てを任せて、近親者が何もわからず何もしないままに葬儀が営まれるならば、単なる形式でしかありません。なるべく手を添えてお別れしたいものです。

亡き人は今

亡き人との永久とわの別れは悲しいものですが、それを癒すのは時間であり、儀式であろうと思います。

臨終・入棺・火葬・通夜・葬儀（受戒）・火葬・葬儀（告別式）・安位諷経（開蓮忌）・初七日……の儀式の意味を理解して参列することが遺族の慰めにつながります。

悲しみが次第に薄れ、生命や縁を頂戴した事への感謝に変わるとき、亡き人は残された方々の心に生き続けるのだと思います。

ある方の言葉が思い出されます。「亡き人を知る人がいる限り、彼はその人の心の中で生き続けている」（岩手県 観林寺住職）

平成25年度宗務所婦人会総会

日 程

時 間	第1日目 4/17 (水)	時 間	第2日目 4/18 (木)
12:00	受 付	7:00	朝 課
12:30	開会式	7:30	朝 食
13:00	総 会	～	自由時間
13:20	記念講演	9:20	会場着席 (荷物持参・かぎ返却)
14:40	演題「慶長使節の世界 ～伊達政宗と支倉常長の夢～」	9:30	講 演
16:00	講師 宮城県慶長使節船ミュージアム館長 濱田直嗣氏		演題 「備えあっても うれいが残る」 —めまぐるしく変わる — 今どきの詐欺犯罪—
16:15	きゃら募金	10:20	講師 宮城県警察本部 元総合相談室長 三塚壽郎氏
16:30	各部屋へ	10:30	閉会式
18:00	薬石懇親会	11:00	散 会

婦人会総会



二十五周年記念講演として、第一日目は、慶長使節の世界／伊達政宗と支倉常長の夢／慶長遣欧使節船協会濱田直嗣先生より支倉常長が藩士伊達政宗の命を受けて、慶長遣欧使節として石巻の月浦浜からサン・ファン・パウチスタ号が出航して四百年目にあたり、その二年前に「慶長三陸地震」による大津波があったことで、二十三年三月十一日の東日本大震災と何かと重なりクローズアップされました。しかも出航の意図は造船事業や交易によって復興を図るねらいもあったといえます。

濱田先生はプロジェクトス

リーンを使って興味深く解りやすい歴史上の裏話的な逸話を交えてお話し下さいました。

最後に「ユネスコ記憶遺産」に登録される予定とのこと、大変喜ばしいかぎりです。

二日目は、元宮城県警察本部総合相談室長の三塚寿郎氏より「備えあってもうれいが残る」—めまぐるしく変わる今どきの詐欺犯罪—

連日、新聞テレビで報じられる詐欺犯罪—少し前は、「振り込めサギ」とさわいだ事象の実態と、私達年代が一番、引っぱりやすい事例など興味深くお聞きしました。

“自分は絶対引っかからない！”人間関係—家族(身内)の絆をより大切にこころして生活して行くことの大切さをお話し下さいました。

参加者 五十七名、他来賓の方々
きゃら募金 三五、四〇七円

久しぶりの宿泊総会でしたので、一日目夜の懇親会は、得意とする芸の発表の場ともなり、とても和やかな楽しい時間を共有出来たことを喜び合い、またの再会を約して散会致しました。

平成二十五年曹洞宗婦人会東北管区研修会

日 時 平成二十五年七月十日・十一日

場 所 岩手県花巻温泉「千秋閣」

研修方針 スローガン「ひろげよう 信じよう
美しい心のふれあい」

美しい心のふれあい

一日目

◆講演 (株)八木澤商店会長

河野和義様

「ふるさとは負けない」

一、生きる

一、共に暮らしを守る

一、人間らしく魅力的に生きる

◆公演

歌手 エリカバンド

「震災支援コンサート」

二日目

◆講演・人権学習

宮城県徳本寺・徳泉寺住職
前東北管区教化センター統監
早坂文明様

「3・11その先へ
―月を流さず―」

研修会に参加させて いただいて

洞林寺婦人会

延 澤 登志子

一昨年開催予定が震災のため延期となった花巻温泉での東北管区研修会に参加させていただきました。岩手県曹洞宗婦人会の大勢の皆様が温かい出迎えの中、研修会に望みました。

凛とした緊張感のなか開会式が始まりました。無事開会式が終了したあとは奥州市在住のエリカバンドさんの公演、震災直後は被災された方々の気持ちを考え歌うことが出来ず、車を使っての移動洗髪をボランティアで行ってたそうです、ある時被災された方との話の中で、バンド演奏をしてるこ



とが判りせひ聞かせてほしいと云われ震災支援コンサートを始められたとのこと、演奏の合間に支援に至るまでの経緯や執意を語りジャンルにとらわれない多種多様な演奏曲とお話しを上手に組み合わせ楽しんで下さいました。

長様のお話し「ふるさとは負けない」の講演でした。被災し残されたものはトラックが二台のみ「生きる」「共に暮らしを守る」「人間らしく魅力的に生きる」を実践、現実から目をそらすことなく真正面から向きあい、息子さんの社長様従業員の皆様が一丸となり、皆で工夫と知恵を出し合い個々の絆、仲間の絆、地域の絆で一步一步前進、努力労力を惜しまず震災翌年秋には工場本社店舗を開設するに至ったとお話しに、ご苦労は計り知れないものがあつた事と思ひますが笑顔で元氣にお話し下さる会長様に「よかったね」「おめでとう」と心の中で拍手を送らせていただけてました。ホールでの商品出張販売も黒山の人だかりで大盛況でした。

更なる復興と発展を願わずには居られませんでした。翌朝は朝七時参加者全員揃っての朝課、今日一日の活力となるすがすがしい気持ちをいただきました。本日の講師は早坂文明ご住職、巨理郡山元町の二つのお寺の住職を務めておられ海に近いお寺は津波ですべて流され高台にあるお寺は地震に依り被災し檀家さんは二つのお寺で二百人以上の方が亡く

一日目の研修より

—奇跡のもろみ—

龍澤寺仏教婦人会

大山 富久子

なるといふ甚大な被害を受けられました。亡き人としっかり向きあいたげな供養し佛さまになっていただけなければとの思いから自分に出ることは何でもやろうと強く感じ辛く悲しい状況のご遺族に寄り添い言葉をかけ話しを聞かれたこと檀家さんにはご住職と一緒に居られた時間がどれ程心の支えになり悲しい現実を一瞬でも忘れることが出来る時間だった事でしょう。

ご住職のお話しの中に「私が無駄に過ぎた日々は昨日なくなつた方がもっと生きていたと思った日々ではないだろうか」と言う言葉がありました。生きている幸せ生かされている有難さ当り前の生活の幸せを願う一人で生きていくのではないと云う事を肝に命じ一日一日を大切にがんばって生きて行きたい、そう感じました。

元気をくれた音楽、とてつもない困難から見ごこに立ちあがり復興に向けて頑張っている方々、自分のことより相手の方に心を寄せ見守って下さる住職様、それぞれ貴重なお話しを聞かせていただき、婦人会の一員として研修会に参加出来ました事、有難く感謝申し上げます。

合掌

二日目の研修より

—ご遺族に寄り添い—

圓福寺婦人会

佐々木 昌子

研修会二日目

宮城県徳本寺・徳泉寺ご住職早坂文明様の講演を聞く。

宮城県山元町は東日本大震災の津波で多くの家屋が流され死者六三三名と云う甚大な被害を受けた。早坂先生のお寺徳泉寺も、すっかり流されてしまいました。

震災後、角田市の遺体安置所で、余りにも多い遺体を前にして、言葉も出ない程の衝撃を受けられました。

そして、ひたすら般若心経を唱えられたと云う事です。その後、死者を慰めるため「千年眠れ」と云う詩を書かれ、(作曲 やなせなな)CDを出されたのです。会場で聴かせて頂きましたが、とても胸を打つ曲で涙が出ました。

亡くなられた方々の魂が安らかに眠って欲しいと心より思いました。残された者達は、かけがえのない毎日の時間を亡くなられた方達の分まで大切に生きなければなりません。

最後に、「仏教の「無常」受けとめ方に人生が有る」と云われました。重いお言葉でした。



合掌

去している姿を見て全財産を使っても再建しようと決心したそうです。大勢の自衛隊員、ボランティアの方々に協力してもらい助けられたと言う。店舗の大切な看板が十キロ離れた所まで流され見つかつた事、被害にあった高台の倉庫の中より醤油樽が十四個見つかつた事、醤油、みその醸造には絶対欠かせない「もろみ」奇跡的に瓦礫の中より四キロ見つかつた事、本当にうれしかったと言っておられました。創業二百六年、岩手県産の大豆や小麦にこだわり、無添加の商品にこだわり、全国に強いファンが多い事等長年にわたって研究し、自身のある製品の提供に心がけている事。前向きに生きる事が奇跡を生む。会長さんの体験を通してのお話涙あり笑あり、お話いただき、感動致しました。ありがとうございました。

本日に「福の神」に恵まれたと感謝の気持ちで一杯、岩手県陸前高田に着き、あまりにも無残な町の様子、店舗、倉庫等全滅、啞然とした。家族は県立高田病院の屋上に避難して無事、ホッと胸を撫でおろしたとのこと。息子さんや社員全員で瓦礫の撤

合掌

支援活動

“一針に心をこめて”

清水寺仏教婦人会

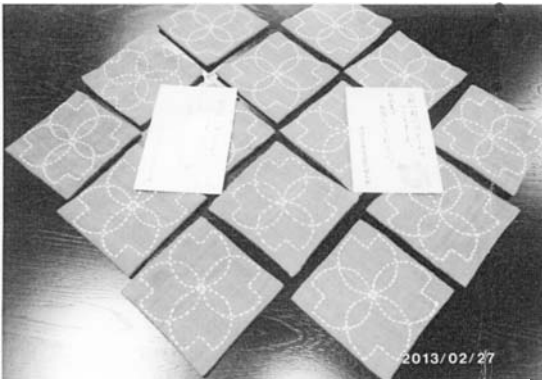
鈴木幸子

宗務所婦人会の事業として、被災者の方々に刺し子のコースターを贈ることになりました。

私たち清水寺仏教婦人会も、二月十一日から三日間かけて七十枚を作りました。(宗務所婦人会としては五〇〇枚)

被災者の方の心の慰めになればとの思いで多くの会員が参加し一生懸命作りました。

型紙を布に写す人、針目を数え



刺し子 “きれいな花が咲きました”

て丁寧に刺す人、仕上げのアイロンをかける人たくさんの方の手により藍色の布に白い花びらが四枚、きれいな刺し子の花が咲きました。

あの震災から二年五ヶ月、まだまだ不自由な生活を送っておられる方が大勢いると聞きます。

平穏な日常が早く戻りますように、これからも支援を続けなければと思います。

“ひと針に願いをこめて”

繁昌院仏教婦人会

佐藤光子

あの東日本大震災で本堂も庫裡も喪失し、日常生活が不便だったお寺さんの多かったことを知り愕然といたしました。何かお役に立ちたい思っております。

県佛教婦人会のお声かけで、刺し子”のコースター作りが企画されました。

宗務所で新年会の後、刺し子”の歴史と意義、更に刺し子を届けること目的などのお話がありました。



たった一枚のコースター作りに二時間もかかり被災地の方々への思いが伝わってくださることを実感いたしました。さっそく繁昌院婦人会でも協力

を呼びかけました。二十名の参加者がありました。

参加者全員「早く元気になってほしい」との願いをこめた熱い思いが伝わってきました。

二十名が想いをひとつにして作業したことはとてもすばらしく尊いボランティアでした。

四十枚をテーブルに並べ見事な



出来ばえに一同感動し、住職様より記念撮影をしていただきました。又寺族様より心づくしのおにぎりとケーキやお茶の接待に心を熱くいたしました。

被災地の方々、どうぞ急がず着実に復興されますようにお祈りいたします。

合掌

“こんな婦人会活動 やっています”

耕田寺婦人会の 年間活動について

耕田寺婦人会

太田 祐子

私達耕田寺婦人会は、早いもので今年十年目を迎えました。

四月に総会をし、皆で年間活動や大まかな予定を確認し合い年間の予定を出します。

三つの柱は、一つは、墓地清掃で、時期は春と秋のお彼岸、お盆後、正月明けの年四回です。

耕田寺墓地は、お寺から1km程離れた鶴ヶ谷東に位置し周りは住宅に囲まれています。その為、環境の面からも、クリーン作戦は必要不可欠なのです。

二つ目は、境内掃除です。お寺の年間行事にあわせて、四月の花まつりと、五月の大回向、八月の盂蘭盆供養、十二月の成道会の年四回実施。さらに必要に応じて行っています。六月には、曹洞宗事務所から、比較的近い事も有り、宗務所敷地内の外廻りの草とりや清掃活動をしています。

仙台の中心部に近い郊外ということもあり、ごみ問題は課題も多く、ごみのマナーが徹底せず、大変な労力を費やします。それでも

清掃のあとの墓地でのおやつタイムは話が弾み、帰る頃には、お墓も身も心も本当に清々しくなり、やりがいを感じます。

三つ目は、年三回の檀信徒法要の会場設営や接待、裏方のお手伝いをしています。

婦人会発足前は、方丈様と奥様と二、三人のお手伝いだけでしたが、今は十年目となれば会員のみんながすっかり恒例となり要領を得ていますから安心です。護持会の役員さんは高齢な方が多くなり、私達婦人会でお手伝いできることは率先してさせて頂き、いつも笑いのたえない仲間達です。

ここ数年は地域の寺として、地



元の中学生の職場体験(三日間)のお手伝いもしています。改めて、日本文化や教養にふれ、学ぶ事の多い機会でもあります。

秋の当婦人会の移動研修は婦人会員にとって一年間の活動のご褒美であり、お楽しみがあります。

又、県の総会の講演や、東北管区研修会は参加する度に良い体験させて頂いて皆様にも、ぜひ足を運んでほしいと思います。

今後も方丈様と奥様の御指導により耕田寺の為に微力ながら活動に参加させていただきます。

合掌

観音堂開眼法要に

参加して

香林寺婦人会

伊藤 百合子

新緑がまぶしい五月二十二日、平成二十五年香林寺婦人会降誕会並びに総会が開催されました。

総会に先だち観音堂改修開眼法要香林寺に建立六十五年来の観音堂、昨年暮れより改修工事に着手されました。六十五年前と云えば、昭和二十二年、太平洋戦争が終り、大変な時、お堂(檜の丸柱)そして金箔の聖観音麗澤観音座位(一メートル)のみごとなお姿が復元されたのです。

開眼法要には北海道了寺東堂様始め近隣の住職様、そして当寺婦人会、梅花講護持会、会員の皆様で厳粛におこなわれました。

「敗戦後間もない時期、経済、物資と大変困難な世相によくもこの様な立派なお堂、そしてお観音様を建立されたものだ、当時の護持会の皆様に唯々感謝の念で一ぱいです」

と方丈様のお言葉でした。

私達婦人会これからも末永くこの観音様を心の寄り所に見守って行きたいと思えます。

法要終了後別館に於て降誕会、

私の独り言に付き合って!

富光寺婦人会

伊藤 秋子

婦人会会報に掲載する記事と指名を頂いたものの何も浮かばず、何日もの間、課題さえ思い付きませんでした。そんな私が一人になった時、ふっと、自分自身を振り返るときがあり一人ごとを言うように活字にしてみました。

震災前から看病していたころの実母を「ああだったな、こうだったな!」と思い出したり大震災を経験して被災地に思いを馳せたり、また支援を頂いた方々に感銘を受けたり、そうかと思えば、昨家族で看取った義母の事を「働き蜂だったな」と思い出したり考えれ

総会を行い、今年は役員改選がありました。が会長さんそのまま続行と云うことで昼食を皆さんでいただき解散しました。

ばここ二〜三年は自分の人生でも生涯思い出として残る体験をしました。

そんな体験の後の生活に自然と変化が出て来た事にきづいたのです。いろいろな方々との触れ合う機会が多くなるにつれ寂しさ、悲しさ、すべてを夢中でやってきた事の気持ち薄れてきたのです。そんな出来事を忘れる事はないとしてもいろいろな方と交友を深める中に癒され充実した一日を過ごせるようになったのです。

もっとも富光寺婦人会は今年開設二十周年記念という節目の年を迎えた事で式典や一泊研修なども会員皆さんで計画実行しましたので役員の一人として活動させて頂

き、有意義な行事の一つでした。地域の皆さんはもちろん、諸行事などの会合、サークルなど自分のまわりの沢山の方々と交わる機会が出来た事に感謝と幸せを改めて感じています。

どんな交わりの中でも絶対学びがあり成長させてくれる何かがあると気づかされたことも実際あります。

これから先も多くの方との交友を深め、大切に心して生活出来たらいいかないと思っています。

私の息抜き独り言に付き合ってくださいありがとうございます。

豊年や朝日にあそぶ雀ども
菊日和三和土に女下駄揃う

龍澤寺仏教婦人会

高橋 さたよ



大川小学校児童・教職員

三回忌供養に参加して

圓通院婦人会 花釜祥子

三月三日、石巻の葬祭会館ホールで、しめやかに三回忌供養が行われました。中央に大川小学校章を生花で飾ったスタンドが置かれ、その周りをとり囲む様に、たくさんのお花が、まるで子供達が遊んでいる姿の様に、散りばめて



ありました。住職様方の読経の中父兄達の、すすり泣く声が始まりませんでした。「ヤンキー先生」で知られる、元高校教諭で、文部科学省の義家弘介政務官が、焼香され、「市教委対応検証が必要」と、又、事故検証委員会の後押し

することを、約束しました。私達は、法要終了後、仏像や色紙を渡されている方々に交って、婦人会の支援物資、刺し子のコースターを手渡しました。
「一針一針に心をこめてつくりました。お元気で過ごしてください」のメッセージカードが輝いていました。少しずつ皆様が、元気になる、生活に明かりが見えたら良いな……と感じる一日でした。



木村理事、二階堂理事も一緒に

傾聴行茶とは

けいちょうぎょうちゃ

「宮城県曹洞宗青年会」で

東日本大震災後の復興支援活動の一つとして一生懸命取り組んでおられます。

仮設住宅を訪ね、一緒に何かを作ったり、写経などをしたり、お茶を飲みながら住民のみなさんと語り合って、明日への活力の一助になればと活動しておられます。

宗務所婦人会単独での支援活動もやって参りましたが、青年僧の方々が熱心に取り組んでおられる活動は婦人会独自の活動とまた違って、事前に説明等をいただいて内容把握の上ご一緒に動かなければなりません。昨年六月二十九日、七月五日と二回でしたが、参加した会員さんは、貴重な体験をさせていただいたと語っております。婦人会として前向きに「傾聴行茶」支援活動を考えて行きたいと思っております。ご協力をお願い致します。

婦人会入会のきっかけ

— 寺族さんに声かけられて —

洞林寺婦人会

延澤 登志子

当然のように自分のそばに居てあたりまえの人と思いい、そう感じておりました。病に倒れ治療の効もなく手の届かぬ所に逝ってしまった夫でした。それから四ヶ月後あの大震災、一瞬のうちにすべてを失い目の前に居る人さえも助けることが出来なかった多くの方の無念さを考えればその悲しみは比較するに値するものではないかも知れない。心の中では分っているつもりでも自分の弱い心にまけ悲しみをいやすことが出来ずに、つい菩提寺にむかい墓に水や香花を供え手を合せている自分がいました。その様なある日、本堂の前で奥様とお会いし婦人会への入会を勧めていただき、入会することとなりお世話になっております。婦人会例会ではご住職初め寺族様の温かいお声がけ、おもてなしをいただき会員の方との良いご縁に恵まれ、楽しく心やすらぐ時間を過しております。ありがたいことでございます。

評議員報告

二十五年

*三月四日・五日

東北管区研修会準備会
(岩手県花巻ホテル千秋閣)

*五月二十一日・二十二日

曹洞宗婦人会全国評議員会
曹洞宗婦人会総会
(東京 宗務庁)

*五月二十三日

東日本大震災被災地

「石巻・女川」
ご供養視察と応援ツアー
(全国より 評議員四十二名参加)

*七月十日・十一日

東北管区評議員
東北管区研修会
(岩手県花巻ホテル千秋閣)

*十一月六日・七日

中央研修会
(東京 宗務庁)

*詳細については婦人会会報
「きょうら」六十八号をお読み
ください

評議員 高橋 たつ子
三田村 昭子

表紙説明(カット共)

今年は何事にも「合掌」東北
楽天野球、アンパンマンにも、
洞林寺婦人会吉田ふく子様
画いていただきました。

支援活動報告(二十五年十一月〜十二月)

●三月三日

「大川小学校慰霊祭」

(於 石巻市大街道)

木村理事、花釜理事

二階堂理事

●三月十日

「石巻市雄勝地区慰霊祭」

(於 石巻市大須小学校)

十二教区 教区長さんに委託

●三月十一日

「三回忌法要」

(於 巨理町當行寺)

花釜理事、二階堂理事

木村理事

●六月二十九日

青年会「傾聴行茶活動」同行

(於 多賀城市)

高橋会長、三田村副会長

花釜会計

●七月五日

青年会「傾聴行茶活動」同行

花釜会計、高橋会計

齋藤庶務

●十一月十五日

「冬期に向って」

津龍院(東松島市)

真源寺(大崎市松山)

正福寺(巨理郡巨理町)

洞仙寺(石巻市桃浦)

支援物資内容

一針一針こころを込めた刺し
子コスター・絵ハガキ二枚
・メモ帳・メッセージカード



支援物資内容

札幌・中央寺婦人会よりの刺
し子の花ふきん・ボールペン
・ホッカイロ・メッセージカ
ード



編集後記

いろいろあった年でしたが、
十一月三日地元の野球チームが
「日本一」になり被災地の皆さ
んに前向きな気持ちをプレゼント
してくれました。

応援する方とされる方が、一
体となった素晴らしい結果を素直
に喜びたいと思います。

私達も仏教婦人会員として地
味ながらも「絆」というところ
のヒモを向一層堅く結び合いつ
かりとにぎって共に歩んで行き
ましょう。(編集担当一同)



発行

曹洞宗宮城県宗務所婦人会
〒九八一一三一一七
仙台市泉区市名坂字
檀町一六九一四
電話〇二二―二一八―三八〇一
曹洞宗宮城県宗務所内